

目標11

地元農畜水産物を取り扱う店舗を、平成32年度(2020年度)までに90店舗にします。

*ここで掲げる地元農畜水産物を取り扱う店舗とは、「茅産茅消応援団(※)」参加店舗数を指します。

【目標担当課:農業水産課】

目標12

学校給食における地場産農水産物の使用品目数について、平成32年度(2020年度)まで15品目以上を維持します。

【目標担当課:学務課】

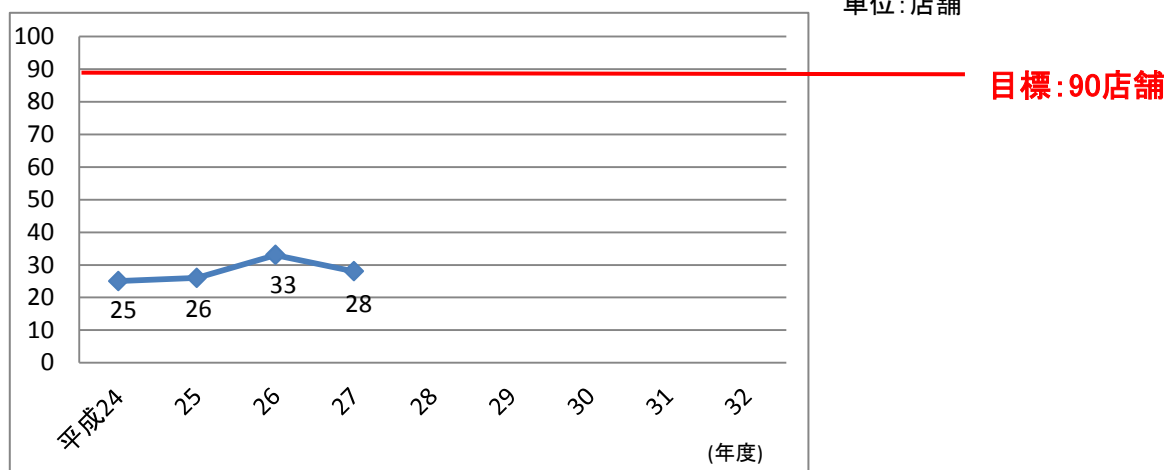
目標13

環境に配慮した農業に取り組む農業者や協力者を増やします。

【目標担当課:農業水産課】

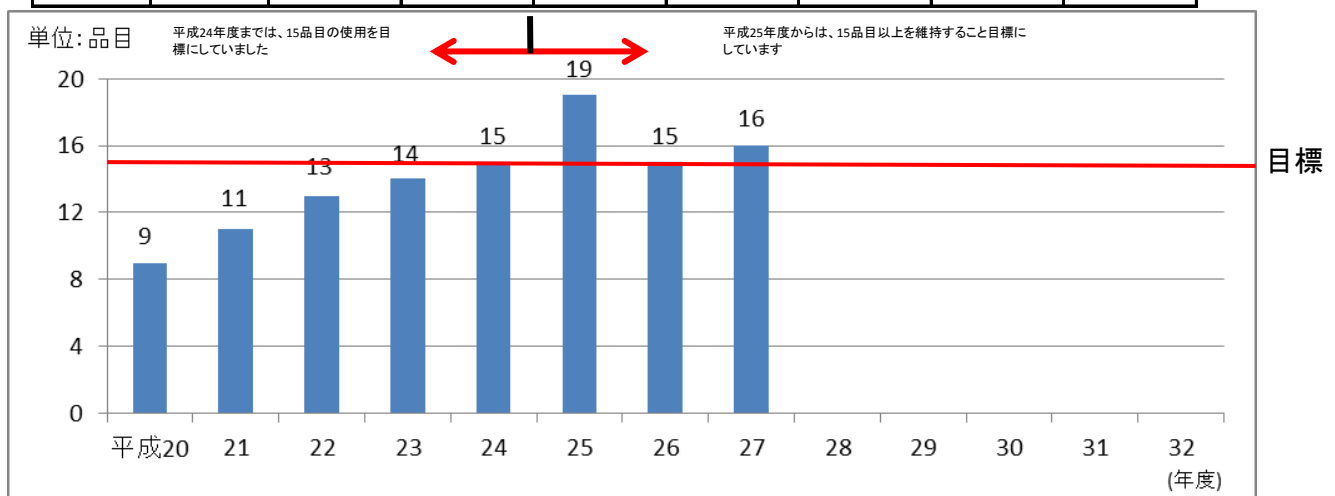
■目標11の進捗状況

年度 (平成)	24年度	25年度	26年度	27年度
店舗数	25店舗	26店舗	33店舗	28店舗



■目標12の進捗状況

年度 (平成)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
店舗数	9品目	11品目	13品目	14品目	15品目	19品目	15品目	16品目



■目標13の進捗状況

●環境保全型農業(※)直接支援対策事業対象農家数

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	1件	2件	2件	2件	0件

●エコファーマー(※)認定生産者数

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人数	3名	3名	3名	3名	2名

●マルハナバチ導入育成事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	19件	16件	16件	19件	17件

●熱水・土壌病害虫防除事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	2件	2件	2件	1件	2件

●土壌改良事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	82件	74件	68件	48件	62件

●施設野菜病害虫防除事業補助金

年度 (平成)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数			22件	24件	21件



市内の野菜を使った夏野菜カレー(学校給食)

重点施策25 地産地消の推進

■概要

- ・学校給食における地場産食材を使ったメニューの開発や、小売業、生産者との連携による地産地消の推進を図ります。
- ・市内における地産地消の取り組みや方法等を市民や事業者へ広く紹介し、地場産農水産物・加工品の利用を促進します。
- ・関係機関と協力し、直売所等の生産者と地域住民が交流しながら地場産農水産物・加工品を販売する場の拡充を進めます。

■平成27年度の取り組み

①学校給食における小売業者、生産者との連携による地産地消の推進

事業名	取り組み結果	担当課
地場産野菜と水産物の継続的な使用	・平成27年度には、地場産物として、野菜16品目を給食に使用しました。小学校給食においては、青果市場、生産者、青果商組合の協力により、茅ヶ崎産野菜が市場に出された場合には、優先的に給食用として納品していただいています。また、茅ヶ崎カーリーなど地場産野菜を使用することをあらかじめ決めている場合には、市場と生産者の協力により必要な野菜の量と時期に合わせて生産量の調整などをお願いしています。 ・暖冬によるえびしワカメの生育不良により、給食に使用できる量が確保できませんでした。枝豆、かぶ、里芋については、茅ヶ崎産の収穫と使用のタイミングが合い使用できました。生産者の高齢化などにより、手間のかかる空豆などの生産量が著しく少なくなり、給食用に提供いただくことが困難な野菜もあります。 ・茅ヶ崎での生産量の多い、ほうれん草、小松菜などについては、それぞれ、約54%、79%程度の地場産使用率であり、決して農産物の大産地ではない茅ヶ崎の農業の状況を考えた場合、給食での地場産物使用率は十分に高いものと考えられます。	学務課
全校共通による地場産食材を使用した献立の提供	・7月に「茅ヶ崎南瓜の旨煮」、10月8日に全校同時に「茅ヶ崎秋カーリー(さつま芋)」、1月に「茅ヶ崎冬カーリー(ほうれん草)」を実施しました。	
茅ヶ崎産新米を使った給食を提供	・11月から12月にかけて、茅ヶ崎産玄米5.1トンを購入し、市内各小学校において、5回から6回の茅ヶ崎産新米による給食を実施しました。 ・市民団体「三翠会」よりたびり黒米を購入し、11月に使用しました。	
児童や保護者への地場野菜使用の周知	・児童に対しては、毎日各クラスに配布する「給食ニュース」や学校栄養職員・栄養教諭による給食指導など授業を通して周知を進めました。 ・保護者に対しては毎月の給食便りの他、給食試食会等の機会を活用し周知を行いました。	
栄養士による茅ヶ崎の農業についての学習、生産者・市場等との連絡調整	・平成28年1月の栄養士部会において、市民団体「三翠会」代表より茅ヶ崎市の米の生産状況、水田の役割や文化について学習する機会を持ちました。 ・例年通り年度初めに、青果市場・青果商組合・農業水産課および学務課と使用野菜とその数量等について、打ち合わせ実施しました。	
保育園給食における地場産野菜などの使用	・茅ヶ崎青果商組合等にご協力をいただき、できる限り使用しました。	保育課

②市内における地産地消の取り組み、方法等の紹介と、地場産農水産物・加工品の利用促進

事業名	取り組み結果	担当課
地産地消のぼり旗による周知PR	・市内の青果商組合の店舗及び魚商組合の店舗において、地場農水産物が店頭に並んでいることが消費者に一目でわかるように、「茅産茅消応援団のぼり旗」を店頭に掲げ、PRを図りました。	農業水産課
市内飲食店組合に対する茅産茅消応援団への参画呼びかけ	・茅産茅消応援団の活動の一環として、「茅産茅消青果まつり」において、市内飲食店に参加を呼び掛け、地場産食材を活用した商品の販売をしていただきました。	
災害備蓄食糧おかゆの活用	・NPO法人により加工、販売されている市内産米100%の災害備蓄用おかゆを購入し、本市の災害備蓄食糧の一部とするともに、平成27年度においては、市内小中学校におかゆを配布し、学校から児童・生徒に防災意識や地産地消・食の大切さ等について伝えていただきました。	

地産地消の周知	・春、秋の農業まつりをはじめ、夏、秋の果樹の持寄り品評会、秋の畜産まつり、冬には湘南花の展覧会の開催をし、関係機関・団体により開催されるイベントの開催支援を行い、地場農畜水産物の魅力のPRを行いました。 ・ポータルサイト「おいしい茅ヶ崎(※)」の再構築を図り、茅ヶ崎市内の「おいしい」情報発信の強化を図りました。 ・「農業・漁業体験プロジェクト」や「買い物ツアー」等の、市民参加型の事業を実施することで、地産地消の推進に繋がる意識醸成を一般市民や親子を対象に実施しました。	農業水産課
海辺の朝市の支援	・「茅ヶ崎海辺の朝市会」における朝市は、広く周知され、かなりのにぎわいを見せています。今後においても、PR支援等を行います。	
わいわい市の活用	・市内農業者の販路の1つであるJAの大型直売所「わいわい市」には、多くの市内生産者が、青果や加工品、花き等を出荷しています。	

③生産者と地域住民との交流、地場産農水産物・加工品を販売する機会の拡充

事業名	取り組み結果	担当課
買い物ツアー、各種品評会、展覧会、園芸講習会などを通じた地産地消の推進	・市内農業者の直売所等を巡る買い物ツアーを年4回実施し、参加した市民の方に地場産農畜水産物を購入していただきました。 ・農産物の品評会を2回、果樹持寄り品評会を2回、花の展覧会を1回実施しました。 ・花の園芸講習会を5回(洋ラン植え替え、鉢物寄せ植え、洋ラン入門、わら亀、洋ラン相談)開催しました。	農業水産課
農業者による朝市の開催支援	・茅ヶ崎海辺の朝市会における朝市は、その魅力が広く認知され、かなりのにぎわいを見せています。今後においても、PR支援等を継続実施します。	

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
地産地消推進事業費	24,262千円	20,052千円	29,195千円	農業水産課
合計	24,262千円	20,052千円	29,195千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・学校での農業活動にも協力を頂いている市民団体「三翠会」より、たげり黒米を購入して学校給食に使用し、学校栄養職員への研修も実施したことにより、献立作成者である学校栄養職員が地域の農業についての理解を深め、児童への情報提供についてもより具体的なものとすることができました。 ・地産地消の推進について、農業・漁業体験プロジェクトのような親子で体験できるものを取り入れ、子どもに体験させることにより、よりよい意識啓発を行いました。 ・保育園給食の中で地場産野菜をできる限り使用することで、地産地消の推進を図ることができました。	A A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
課題	
・学校給食での地場産物の使用率は、茅ヶ崎の農業の状況から考えて、十分に高いものであると考えられます。しかし、給食だけでのみ、今以上の茅ヶ崎産食材を使用することは、生産者・市場等にも多大な負担となり、決して本来の地産地消の目的に沿うものではないと思われます。給食での地産地消は、茅ヶ崎の農業の有り方に寄り添い進められるものであるため、今後、茅ヶ崎の農業がどのような方向を目指すかについて、継続的な検討と取り組みが求められていると考えます。	

重点施策26 環境に配慮した農業の普及啓発

■概要

- ・環境保全型農業に関する技術や事例等の情報提供を行います。
- ・有機栽培や減農薬栽培等に取り組む農業者への補助等を実施します。
- ・生物の生育・生息環境の確保や水質浄化の観点から効果的とされる水田の冬期湛水(※)について、試験的な導入を視野に検討を行います。

■平成27年度の取り組み

①環境保全型農業に関する技術や事例等の情報提供

事業名	取り組み結果	担当課
給食残さを堆肥化して栽培した野菜の提供	・市内農業者団体による給食残さを堆肥化したぼかし堆肥を活用し、野菜の作付を行い、10月に行われた花と野菜のまつりにおいて活用されました。 ・市内小学校3校への配布および地元小学校での出前授業を実施する予定でしたが、諸事情により、未実施となりました。	農業水産課
環境保全型農業直接支援対策事業の周知	・農業生産組合長回覧を通じて周知を行いましたが、平成27年度より法整備に伴い、本事業の対象者が個人から団体に変更になり、対象団体は0件となりました。	
畜産および堆肥、循環型農業の学習機会の提供	・茅ヶ崎市畜産会より、市内小学校へ計120袋の堆肥の寄贈が行われました。代表して、松林小学校において、畜産会長とJA茅ヶ崎地区運営委員長より循環型農業(※)の話を子供たちに伝えていただきました。	
緑肥推進事業	・市内に田を所有し、希望される方に対し、レンゲ草の種子を配布し、播種していただくことで、緑肥による地力の向上、良好な景観形成を図りました。(13名281a)	

②水田の冬期湛水についての試験的導入

事業名	取り組み結果	担当課
冬期湛水の試験的实施・調査	・田植えや草刈り、側溝清掃等の管理、収穫を通じて現地の状況を確認しました。 ・本実験事業は経済的な収支が成り立たず継続が困難になったこと、また、市内への普及という点でも実現可能性が低いことから、平成27年度をもって終了することといたしました。	農業水産課 環境政策課 景観みどり課

■平成27年度予算執行状況

事業名	27年度予算額	27年度決算額	(参考)26年度決算額	担当課
環境保全型農業直接支援対策補助金	400千円	0千円	51千円	農業水産課
冬季湛水の試験的实施	20千円	22千円	100千円	
合計	420千円	22千円	151千円	

■成果・課題と評価

成果	評価
・給食残さ堆肥化事業については、アクシデントに見舞われたこともあり、学校へのサツマイモの提供及び学習機会の提供は未実施となってしまいました。 ・畜産堆肥の小学校への寄贈により、各小学校において有効活用が図られるようお願いしました。	C A:極めて順調に進んでいる B:おおむね順調に進んでいる C:ある程度進んでいる D:あまり進んでいない E:積極的な取り組みが必要 --:取り組みなし(評価不能)
課題 ・環境保全型農業直接支援対策事業補助金の対象者は、平成27年度の法整備に伴い、対象が個人から団体になったことにより、対象者が0となりました。引き続き、各種補助金等により支援を行う必要があります。	

トピックス

花と野菜のまつり

平成27年10月18日、萩園の澄み渡る秋空の下、花と野菜のまつりが開催されました。
まつり当日は秋晴れとなり、さわやかな風が流れておりました。
即売会は開始30分前から大行列ができ、販売開始と同時に朝採れたての大根やほうれん草、
キュウリ、ピーマンなどの野菜があつという間に売り切れになりました。
コスモス畑は一面ピンク色に染まり、多くの来場者が訪れました。



朝採れたての大根が販売待ち！



一面ピンク色のコスモス畑



直売は大賑わい！



芋の収穫販売実施中



芋の収穫販売準備中



11月上旬頃まで摘みとりが出来ます。